

「高校生の冬山・春山登山における安全確保指針検討委員会」から県教育委員会に対する提言(1)

山岳部等の顧問育成及び支援についての提言

1 山岳部等の顧問の指導力の向上

- (1) 山岳部等の顧問の指導力(力量)が生徒の活動に直結している。山岳部等の活動の保障や安全確保のためには顧問の指導力の向上を図ることが重要。

2 山岳部等の顧問の現状 (山岳総合センター「高校山岳部顧問の意識調査」より)

- (1) 指導年数10年未満の顧問が6割以上を占める。
 (2) 顧問の年齢は、50歳以上が約7割、20～30歳代は2割未満。
 (3) 山岳部等の女子部員が増加する中で、女性が顧問となっているのは約3%。
 (4) 顧問の悩みは、体力不足が50.8%、知識や技術の不足が44.1%、他部との兼務が32.2%、精神的負担が28.8%。

3 研修の充実

(1) 研修内容

- ・「山行」とは考える現場であり、学校とは異なる教育現場である。研修を通じ顧問として考える力を身につけさせたい。
- ・登山のリスクマネジメントでは、適切な判断ができることが重要である。
- ・年間を通じた医学知識を得てもらいたい。
- ・危機管理の講座に限らず、高山植物などの自然学講座も含めて幅広い力をつける。

(2) 実施機関・団体

- ・現在、山岳総合センターが実施している各種の講座に加え、県教育委員会や県高等学校体育連盟登山専門部においても研修の実施を検討する。
- ・山岳関係団体は、これらの研修に各専門分野の講師として協力する。

(3) 研修に参加しやすい仕組み

- ・山岳部等の顧問が研修に参加しやすい環境づくりが重要である。
- ・県教育委員会や県校長会は、山岳部等の顧問が参加しやすい仕組み(出張扱い、旅費別途負担、参加費補助、義務化等)を検討する。
- ・県校長会等の会議において、当該年度の研修計画を説明し、各学校長の理解と周知を図る。

参考：山岳総合センター「高校山岳部顧問の意識調査」より

- 身につけたい顧問の力
 - ・危機管理能力 62.7% ・基本的な技術 52.2% ・基礎的な知識 33.9%
- 研修機会への意識
 - ・積極的に参加したい 47.4% ・校務が忙しく参加したくない 32.2%

4 外部の専門家の活用

- (1) 山岳部等の顧問の指導力の差によって生徒の活動目的、内容、場所などが左右されてしまうのは好ましくない。
- (2) 学校教員がすべてを担うには限界もあるため、必要に応じて、顧問を支援する外部の専門家の活用を検討する。
- (3) 県山岳協会は、学校からの相談に応じて、日本体育協会公認山岳指導員、登山ガイド、山岳総合センター講座の受講者など、適任者の紹介等を行うことを検討する。